

何故？もっともソフトテニス競技が危機的な事態になる理由とは

【課題】

- ★深刻な少子化の進行「中学生生徒数の減少の加速化」
- ★働き方改革の推進「教員の多忙化解消」
- ★学校部活動部員数の減少「運動部活動離れ」
- ★子ども達の要望「多種多様な種目を選択」

国策「文部科学省・スポーツ庁」として、上記の課題等を鑑みて地域クラブ（学校働き方改革を踏まえた部活動改革）構築の改革に踏み切った。

- 2023～改革推進期間⇒2026～改革実行期間へ
- 2024 年度予算 28 億円⇒2025 年度概算予算 61 億円へ

全種別競技の中で、ソフトテニス競技は競技人口、会員登録数ともに第1位を継続している。

しかし、過去数年の調査結果によると、会員登録数は毎年約 14,000 人ずつ減少、その中の約 11,000 人（75%）が中学生である。年代別に見てみると中学生の登録数が断然に多く、高校生になると三分の程度に減少している。典型的な坪型の組織体型である。

学校部活動が「地域クラブ活動」に移行した時に、各地域に受け皿の準備ができていなければ最悪の状況へ、つまり「中学生の競技人口は、学校部活動にて発展してきた経過もあり、大幅に激減する」ことが考察できる。

全国ソフトテニス部活動調査の結果から、中学生全体の2割程度が競技志向であり、残りの8割は、楽しさを求めるレクリエーション思考である。（中学生の8割が中学校から始める、1割がジュニアから継続し、残り1割が親や兄弟の影響でソフトテニスを行っている。）

小学生は競技志向が大半であることが伺え、小学生大会で結果を残してきた選手達が、中学校の大会でも結果を残しているのが現状である。

坪型からエントツ型の組織体型になってしまうことで、土台は狭く小さく、上が細く高ければ崩れやすいものとなる。（理想は、ピラミッド型の組織体型になることが望ましい。）

会員登録数が大幅に激減した時に、組織を運営することが難しくなる。財源の確保が厳しくなれば事務局職員の削減、事業実施の困難、補助金・助成金事業の廃止、会員へのサービス低下等が考えられる。

競技力向上においては、裾野が広ければ広いほど高いものを作ることができる。

「富士山をイメージすればわかりやすいと思う。広く・高く・大きい山からは、多くの恩恵を受けることが沢山ある。」

地域クラブは、「一番重要な裾野」になる。生涯スポーツの上に競技スポーツは成り立つと考える。

ソフトテニス競技の魅力は、生涯スポーツで小さな子どもからお年寄りまで一緒にプレーできること。

子ども達の競技への思考は純粋に楽しみたい、ということ。

我々大人がソフトテニスの「面白さや楽しさ」を伝え、競技に対して「価値と喜び」を生み出せるように「魅力ある競技」にしていくことが大切になる。

この課題を解決していく中で、子ども達がソフトテニスを通して、「人生に豊かさ」を見いだせるような競技になるよう、皆で取り組んでいきたい。

- 何をすればいい、誰でも出来ることは何？
- 様々な場所で、話題に取り上げ話をし、行動する。

『部活動の地域移行』『部活動改革』を推進していくためには
「**できることをみつけ 一歩ずつでも進んでいく**」

地域移行を実践するなかでわかった 4つの焦点

「大人の意識改革」「受け皿準備」「指導者確保」「財源確保」

【4つの焦点の必要性】を強く感じている。

- 一つ目は、最も難題となる、事業に関する教員、指導者、保護者、競技団体など大人の意識改革。（地域クラブ活動連携は大人が乗り越えるべき課題）
- 二つ目は、受け皿の準備で、教育委員会（スポーツ振興課）、競技団体が中心となり中学校部活動顧問と協議（報連相）を行いながら進める。
- 三つ目は、指導者確保で、＜地域のために何かしたい＞という思いのある、協力的な人の掘り起こしが大切である。
- 四つ目は、財源確保。（国・県・市町村からの助成＋自発的な財源確保が重要。）

以上を踏まえ、『段階的』にではなく、期日を決め『一気に改革実行（県・市町村・競技団体・学校）することが重要』だと感じる。
でなければ、各方面で温度差の不満などが募り、推進しにくくなることが予想できる。

【その推進役となれる人が重要】

一番の適任者は、「トライ&エラー」で臨める人。

- 「今までは・・・だった。」などが口癖の人などは、この改革には取り組めない。
- 「できない論ばかり話す人」、「課題ばかりを挙げる人」は、メンバーとしてふさわしくない。
- 「できるものや内容を探せる人」を関係者として選任することが大切。
- 「情報を取捨選択できる人」が必要。

地域クラブ設立の知恵は地域でしか生まれない